

こおろぎ

発行日 2006年3月1日 **No.157**
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
代表取締役：杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp
URL <http://www.origin-co.com>

無気力？

私は15年以上の間、子育ての相談を受けたり、学校で授業をしたりしながら、子ども達の変化を見てきました。

私がカウンセリングの仕事をするようになったころは、相談のほとんどが非行問題でしたが、時間とともに相談内容は不登校が中心となり、最近では無気力な子どもの相談が増えてきました。

私が授業をしていても、かつては目立っていた「ツッパリ」の姿はほとんどなくなり、疲れきった子どもたちの姿が目につきます。

私は、こうした無気力な子ども達に喜ばれるものはないかと考え、構想10年(嘘です!)、ついに無気力な子どもに爆発的に支持される「ゲーム・ソフト」の考案に成功しました!

このゲームの画像はとても綺麗ですし、ストーリーも最高にドラマチックです。そしてこのゲーム最大の特徴は、リモコンの「Aボタン」だけを押していれば、よそ見をしていても全て画面がクリア出来る簡単さです!!

これなら無気力な子ども達にも喜ばれて「大ヒット間違いなし」だと思うのですが、果たしてこのゲームは大ヒットするのでしょうか?

いかにも無気力そうな子ども達に、このゲームをやってみたくを尋ねたところ、誰もが「そんなゲームはつまらない!」「難しいのを攻略するから面白いんじゃない!」と言うのです。

「誰にでも出来る楽なゲームはつまらない! 難しいゲームを頑張ってクリアするのが面白い!」と言う子ども達のどこが無気力なのでしょう? 本当は誰も自分の力を発揮して、何かを達成したいと思っているのではないのでしょうか?

私達はいかに楽なことや、努力しなくても出来ることを求めがちですが、結果の分かること(保証されていること)や、努力しなくても出来ることばかりを繰り返していると、人生は逆につまらなくなっていくのです。

ではどうして子ども達は、ゲームには挑戦するのに、自分の生活では挑戦しようと思わないのでしょうか?

今月の活動情報

活動を早く知りたい方は、ホームページで、

日程	内容	主催者・会場
3/3(金)	「幸せに生きる秘訣」	(島田市立相賀小学校)
3/3(金)	社会福祉協議会に求められるもの	(菊川社会福祉協議会)
3/4(土)	島田建設的な生き方を学ぶ会	(オリジン)
3/9(木)	沼津建設的な生き方を学ぶ会	(原地区センター)
3/9(木)	「失敗から学んだ社員育成法」	(雇用能力開発機構静岡)
3/10(金)	「企業から見た社会福祉」	(菊川社会福祉協議会)
3/11(土)	シンポジウム「成功者が語る成功の秘訣」	
3/12(日)	経営塾	(オリジン)
3/14(火)	南アルプス建設的な生き方を学ぶ会	
3/16(木)	東京掃除に学ぶ会	(東京都新宿)
3/16(木)	東京建設的な生き方を学ぶ会	(田町・コネクト)
3/17(金)	沼津経営塾	(沼津市民文化センター)
3/18(土)	山中湖建設的な生き方を学ぶ会	(安心サービス)
3/19~22	リフレッシュ・セミナー	(オリジン山中湖研修所)
3/23(木)	浜松建設的な生き方を学ぶ会	(京丸園)
3/24(金)	立正大学卒業式	(立正大学)
3/25~26	東京経営塾「マネージメント・ゲーム」	(田町・コネクト)

幸せな人生

子どもたちが挑戦しなくなる一つの理由に、「結果主義」があると私は思っています。

結果で評価され、結果が出なければそれまでの努力が認められないような環境で育てられると、人は「結果主義」に陥り、次のような傾向が現れます。

- 1、結果が全てなので、結果が出そうなことにしか挑戦しなくなり、期待する結果が出そうもないことには挑戦しなくなる。
- 2、挑戦した結果、手に入るものが自分の欲しいものでなければ挑戦しなくなる。
- 3、欲しい結果を手にするためなら手段を選ばなくなる。

しかし、人生は本当に「結果がすべて」なのでしょうか?

もし結果がすべてだとしたら、生まれてからずっと不満の中で暮らし、死ぬ前の日に宝くじに当たった人の人生は、結果として幸せになったのですから、「幸せな人生」ということになりません。

しかし、これは「幸せな一瞬」とは言えても、決して「幸せな人生」とは言えないと思います。「幸せな人生」とは、一日、一日と「幸せな日」を積み重ねた日々の全体をいうと思うのです。

こう考えると、「いつかの幸せ」のために今日を我慢して生きる人は、幸せになれないことになりません。もし期待した結果が得られなければ、それまでの日々を後悔することになるかもしれません。それでは本当にもったいないと私は思うのです。

昔の日本の言葉に「努力すなわち幸福」という言葉がありますが、この言葉の意味は、「努力した結果、夢が叶ったら幸せ」と言っているのではなく、「夢をかなえるために努力している今が幸せである」と言っていると思うのです。

「こおろぎ(156号)」で、「今年、サロマ100kmウルトラマラソンに挑戦する」と発表しましたが、私が完走出来る確立は100に1つもないと思います。しかし、だからこそ挑戦する甲斐があり、面白いと思うのです。

完走するという目的のために、少しの時間を作っては練習し、完走できる生活を工夫します。それでも完走できたら感動して涙するでしょうし、たとえ完走できなかったとしても、一生忘れない悔し涙を流すと思うのです。

何の努力もいらないことをして、こうした感動を得られるのでしょうか?

力の弱い子象の足に鎖をつけて杭に縛り付けると、大きくなってすでに鎖を切るだけの力がついても、象はその鎖の範囲から出ようとしなくなるそうです。私は子どもだけではなく、そうした大人がたくさんいる気がしてなりません。

世の中には「世の中がもっとやさしくなったらいい」と願っている人がたくさんいると思います。しかし、そのほとんどの人は「自分には力がない」「自分が頑張ってもどうにもならない」と考えてあきらめていると思うのです。たとえば、私達が生きているうちに実現できなかったとしても、やさしい世の中にしたいという思いは残りますし、充実した人生は遺ると思うのです。

簡単に出来ないことだからこそ、やり甲斐があり、やる意味があるのではないのでしょうか?

私の好きな句に「おもしろきこともなき世をおもしろく、すみなすものは心なりけり(そのような生きかたが出来かどうかは本人の心が次第である。)」という句がありますが、一度きりの人生を充実した面白いものにするか、つまらないものにするかは、その人の生き方一つのように思います。